



# サーバ管理



om:

<https://pandorafms.com/manual/!776/>

permanent link:

[https://pandorafms.com/manual/!776/ja/documentation/pandorafms/installation/06\\_server\\_management](https://pandorafms.com/manual/!776/ja/documentation/pandorafms/installation/06_server_management)

2024/06/10 14:34



# サーバ管理

[Pandora FMS ドキュメント一覧に戻る](#)

## Pandora FMS サーバ管理

### Pandora FMS サーバの手動起動/停止

メンテナンスにより Pandora FMS サーバを手動で停止する場合は、サービスウォッチドッグが実行されているかどうかを確認してください。詳細は、[こちらの章](#)を参照してください。

Pandora FMS を手動で起動 停止するには、コマンドラインから以下を実行します。

- [デーモン](#)の停止:

```
/etc/init.d/pandora_server stop
```

- デーモンの起動:

```
/etc/init.d/pandora_server start
```

- デーモンの再起動:

```
/etc/init.d/pandora_server restart
```

バージョン NG 756 以上

バージョン NG 756 以上では、上記の手順で `pandora_ha` サービスも起動されます。

Pandora FMS サーバのみを手動で起動 停止するには、コマンドラインから次のように実行します。

- デーモンの停止:

```
/etc/init.d/pandora_server stop-server
```

- デーモンの起動:

```
/etc/init.d/pandora_server start-server
```

- デーモンの再起動:

```
/etc/init.d/pandora_server restart-server
```

systemd を通して次のように pandora\_ha の状態を確認できます。

```
systemctl status pandora_ha.service
```

## データベース管理

Pandora FMS インフラストラクチャは外部メンテナンスを必要としませんが、古いデータを削除し、データベースをできるだけコンパクトに維持することが非常に重要です。これらのタスクの実行を担当する Pandora FMS に不可欠なツールがあります。

Pandora FMS オープンソース版では以下にあります。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_db.pl
```

**E** Pandora FMS Enterprise 版の場合は以下です。

```
/usr/bin/pandora_db
```

このツール(以降 pandora\_db.pl)はPandora FMS サーバパッケージに含まれているためPandora FMS サーバがインストールされているシステムから実行する必要があります。コンソール用とサーバ用で2つのシステムがある場合Pandora FMS サーバがホストされている方で pandora\_db を実行する必要があります。

Pandora\_db はPandora FMS が適切に動作するための重要なツールです。そのため、システムの cron タスクで一時間ごとに実行するように設定されています。以下のファイルで設定されています。

```
/etc/cron.hourly/pandora_db
```

このツールは、データベースの全てのメンテナンスを自動的に実行します。

- 古いデータの削除をします。
- 既存のデータを圧縮し、いくつかの間隔を補間します。これにより、グラフは同じですが、それらを保存するために必要なスペースははるかに小さくなります(これがPandora FMS が大量の情報を処理できる理由の1つです)。
- 存在しないモジュールのデータベースでの整合性や、初期化されていないために利用されていないモジュール(これらのモジュールは、未初期化モジュールとして表示されます)をチェックします
- エージェントの一日の接続情報を削除しますPandora FMS は、24時間を越えるエージェント接続情報は必要としません。もし、それが増えると、データベースのアクセス速度が低下します。
- **E** Enterprise 版では、全ての古いデータをスタンバイデータベースに移動します。

前述したように、pandora\_db の実行はシステムの cron タスクで設定されます。この設定は Pandora FMS サーバのインストールに自動的に含まれますが、確認すると良いでしょう。  
/etc/cron.hourly/pandora\_db が存在し、次の行が含まれている必要があります。

Pandora FMS オープンソース版の場合:

```
"/usr/share/pandora_server/util/pandora_db.pl"  
"/etc/pandora/pandora_server.conf">/dev/null 2>&1
```

Pandora FMS Enterprise 版の場合:

```
"/usr/bin/pandora_db" "/etc/pandora/pandora_server.conf">/dev/null 2>&1
```

パーミッションとファイルの所有者を確認することも同様に重要です。正しいパーミッションは 755 です。これは、次を実行することで付与できます。

```
chmod 755 /etc/cron.hourly/pandora_db
```

所有者に関しては、ユーザとグループ共に “root” である必要があり、次のように設定できます。

```
chown root:root /etc/cron.hourly/pandora_db
```

## メンテナンスツールの手動実行

必要に応じて、前のセクションで説明した pandora\_db を手動で実行できます。シェルコンソールからコマンドを実行します。

Pandora FMS オープンソース版の場合:

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_db.pl /etc/pandora/pandora_server.conf
```

Pandora FMS Enterprise 版の場合:

```
/usr/bin/pandora_db /etc/pandora/pandora_server.conf
```

次のような出力が表示されます。

```
Pandora FMS DB Tool v7.0NG.757 Build 210915

This program is Free Software, licensed under the terms of GPL License v2
You can download latest versions and documentation at official web

DB Tool now initialized and running (PURGE=45 days, COMPACT=0 days, STEP=1) .

[*] Pandora FMS Enterprise module not available.

Starting at 2021-12-16 12:18:42
12:18:42 [PURGE] Deleting old data from tagente_datos. 100%
12:18:42 [PURGE] Deleting old export data from tserver_export_data
12:18:42 [PURGE] Deleting old session data from tsessions_php
12:18:42 [PURGE] No data in tagente_datos_string.
12:18:42 [PURGE] Deleting old event data at tevento table (More than 7 days).
12:18:42 [PURGE] Deleting old audit data (More than 15 days).
12:18:42 [PURGE] Deleting old SNMP traps (More than 7 days).
12:18:42 [PURGE] Deleting old GIS data (More than 7 days).
12:18:42 [PURGE] Deleting pending delete modules (data table).
12:18:42 [PURGE] Deleting pending delete modules (status, module table).
12:18:42 [PURGE] Deleting old access data (More than 24hr)
12:18:44 [PURGE] Agent access deletion progress %100
12:18:44 [PURGE] Delete contents in report that have some deleted modules.
12:18:44 [PURGE] Delete contents in report that have some deleted agents.
12:18:44 [PURGE] Delete empty contents in report (like SLA or Exception).
12:18:44 [PURGE] Delete autodisabled agents where last contact is bigger than 30 days.
12:18:44 [PURGE] Deleting old netflow data.
12:18:44 [!] Cannot execute /usr/bin/nfexpire, skipping.
12:18:44 [PURGE] Deleting old log data.
12:18:44 [PURGE] Deleting log data older than 90 days.
12:18:44 [PURGE] Deleting old special days.
12:18:44 [PURGE] Deleting old tgraph_source data.
12:18:44 [PURGE] Deleting old network matrix data.
12:18:44 [PURGE] Deleting old messages.
12:18:44 [PURGE] Deleting old cache data.
12:18:44 [CHECKDB] Ignoring not-init data.
12:18:44 [CHECKDB] Checking database consistency (Missing status).
12:18:44 [CHECKDB] Checking database consistency (Missing module).
12:18:44 [CHECKDB] Updating empty aliases.
12:18:44 [INTEGRITY] Cleaning up group stats.
12:18:44 [INTEGRITY] Deleting orphan alerts.
12:18:44 [INTEGRITY] Deleting orphan modules.
12:18:44 [FORGOTTEN DISCOVERY TASKS] Check for discovery tasks bound to inactive server
12:18:44 [FORGOTTEN DISCOVERY TASKS] There are not defined discovery tasks. Skipping.
Ending at 2021-12-16 12:18:44
# euclides root ~
```

負荷が高いシステムでは数時間かかる場合があるため、バックグラウンドでプロセスを実行することをお勧めします。

手動でメンテナンスツールをバックグラウンド実行するには、次のようにします。

Pandora FMS オープンソース版の場合:

```
nohup /usr/share/pandora_server/util/pandora_db.pl
/etc/pandora/pandora_server.conf
```

Pandora FMS Enterprise 版の場合:

```
nohup /usr/bin/pandora_db /etc/pandora/pandora_server.conf
```

バックグラウンドでプロセスの実行には少々時間がかかります。プロセスの実行中でも、シェルこのソールを閉じることができます。

インストールの状況によっては、ツールのディレクトリが変わります。ほとんどの場合は以下の通りです。

```
/usr/share/pandora_server/util/
```

Pandora FMS の以前のバージョンでは以下にあります。

```
/usr/share/pandora/util/
```

古いバージョンではなく、新しいバージョンのツールを使用していることを確認することが非常に重要です。引数なしでプログラムを実行すると、メッセージの先頭にツールのバージョンが表示され、サーバにインストールしたバージョンが一致している必要があります。

## データベースバックアップ

これは、他のファイルやサーバ設定を含めずに、データベースのみのバックアップまたは復元であることを認識しておくことが重要です。

コマンド `mysqldump` は、テーブル構造とその内容の完全なデータベースダンプを行います。このコマンドには、バックアップを実行するためのいくつかのオプションがありますが、ここでは最も基本的な使用法に焦点をあてます。これは、データベースを実行しているのと同じホストから実行することを意味します。バックアップが行われるデータベース名とそれにアクセスするための認証情報を指定します。

```
mysqldump -u <user> -p <data_base>
```

例えば“pandora” データベースをバックアップし、`.sql` ファイルにダンプを出力するには次のようにします。

```
mysqldump -u root -p pandora > /backup/pandoradb_backup.sql
```

そのようにして行われたバックアップから、データベースを完全に復元できます。MySQL にログインし、復元されるデータベースの作成に進み、そのデータベースにバックアップをロードします。前のファイルを例にすると、次のように実行します。

```
[root@pandorafms ~]# mysql -u root -p  
mysql> create database pandora;
```

```
mysql> use pandora;  
mysql> source /backup/padnoradb_backup.sql
```

最後に、Pandora FMS コンソールとサーバの両方で設定済みのユーザ権限を再度設定し、データベースへのアクセス権を付与します。(mypassword をあなたのパスワードで置き換えてください)

```
grant all privileges on pandora.* to pandora@localhost identified by  
'mypassword';
```

これは、データベースのバックアップ/リカバリを実行するのみであり、サーバの設定などの他のファイルに対するものではないことに注意してください。

## Pandora FMS のバックアップとリカバリ

Pandora FMS サーバの配布パッケージには Pandora FMS を完全にバックアップおよび復元するのに役立つスクリプトがあります。このスクリプトは、サーバとコンソールが同じマシン上にあるシステムでのバックアップと復元を目的としています。

コンポーネントが複数に分かれた環境の場合は、適切なパラメーターでツールを使用するか、ニーズに合わせてツールを調整する必要があります。

この処理を実行するには、スクリプトを root 権限で実行する必要があります。スクリプトは以下にあります。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh
```

引数無しで実行すると、ヘルプを表示します。



```
euclides root ~ /usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh
Pandora FMS Command line backup tool. http://www.pandorafms.org
(c) 2009-2015 Sancho Lerena <slerena@gmail.com>, Artica Soluciones Tecnologicas

Syntax:
  -c Path to Pandora FMS console, p.e: /srv/www/htdocs/pandora_console
  -d Destination path for backup file. p.e: /tmp
  -s Source filename for backup restore. p.e: /tmp/pandorafms
  -f Restore also files
  -q Quiet. No output message (used for scripts/cron)
  -b No database backup/restore

Please BE SURE TO USE RESTORE (-s) option. This will OVERWRITE ALL your
PandoraFMS install, including files, configuration and data. Please backup first!

euclides root ~
```

このスクリプトは、次のコンポーネントのバックアップとリストアをするように設計されています。

- サーバ設定ファイル
- 処理待ちのファイルおよび、エージェントのリモート設定ファイル
- DB 全体
- ウェブコンソール全体

## バックアップ元とバックアップ先オプション

このスクリプトは、ウェブコンソールの設定ファイルに設定されている DB のアクセス情報を利用します。そのため、ウェブコンソールの設定ファイルのパスを `-c` オプションで指定する必要があります。このパラメータは、ウェブコンソールのバックアップを取得するためにも利用されます。

バックアップ先は、`-d` オプションで指定します。バックアップファイルが `pandorafms_backup_xxxxxxx.tar.gz` というファイル名で圧縮されて置かれます。

そのようにして、次のコマンドは完全な環境バックアップを実行します。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c
/var/www/html/pandora_console/ -d /tmp/
```

`-b` オプションを付けるとデータベースのバックアップを行いません。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c
/var/www/html/pandora_console/ -d /tmp/ -b
```

## データベースリストア

スクリプトでデータベースをリストアするには、パラメーター `-d` を `-s` に置き換えて、バックアップ先のパスを指定します。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c
```

```
/var/www/html/pandora_console/ -s  
/tmp/pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz
```

これは、ディレクトリを含まないデフォルトのリストアです。

## データベースとディレクトリのリストア

-f オプションを使用すると、バックアップファイルを復元できます(現在のファイルを上書きします)。現在の設定ファイルを上書きすると深刻な結果になる可能性があるため、バックアップリカバリを実行し、すべての Pandora FMS のファイル(コンソールおよびサーバ)を復元する場合は、-f を使用します。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c  
/var/www/html/pandora_console/ -s  
/tmp/pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz -f
```

grant コマンドを使って、データベースのユーザ権限の復元を忘れないようにしてください。

## ファイルのリストア(データベースではない)

前のオプションと同じように、データベースを含めずにファイルのみを復元できます。それを行うには、上記の実行例に -b オプションを追加します。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c  
/var/www/html/pandora_console/ -s  
/tmp/pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz -f -b
```

## 利用例

### バックアップの作成

root で以下を実行します。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c  
/var/www/html/pandora_console/ -d /tmp/
```

次のようなメッセージが表示されます。

```
Backup completed and placed in  
/tmp//pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz
```

これは、バックアップが /tmp/pandorafms\_backup\_2021-12-16-16-11-50.tar.gz にでき

たことを意味します。

### バックアップからのリストア

自動でバックアップからリストアするために、コマンドラインからデータベースへアクセスできる権限が設定されていると仮定します。

実行:

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_backup.sh -c  
/var/www/html/pandora_console/ -s  
/tmp/pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz -f
```

次のような表示がされます。

```
Detected Pandora FMS backup at  
/tmp/pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz, please wait...  
Dropping current database  
Restoring backup database  
Restoring files and configuration  
Done. Backup in /tmp/pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz restored
```

### コンソール障害時におけるバックアップからのリストア

Pandora FMS コンソールが障害により異常状態になった場合、このツールでバックアップを取得していれば、コンソールをリストアすることができます。そのためには、次のようにバックアップファイルを手動で展開します。

```
cd /tmp  
tar zxvf pandorafms_backup_2021-12-16-16-11-50.tar.gz
```

これより、ウェブコンソールのファイルが /tmp ディレクトリに展開されます。上記の例のバックアップの場合、次のようなディレクトリが作成されます。

```
/tmp/var/www/html/pandora_console
```

このディレクトリ内の全てのファイルをウェブコンソールのディレクトリ (利用しているディストリビューションにより異なります) にコピーしてください。

```
cp -R /tmp/var/www/html/pandora_console /var/www/html
```

以上でバックアップからリストアされ使えるようになります。

## Pandora FMS の Watchdog 実装

コードリポジトリには、“ウォッチドッグ”(Watchdog)として使用できる小さなスクリプトがあります。このスクリプトは、Pandora FMS の状態監視を実行します。

復旧動作(Pandora FMS の起動を試みる)を実行できますが、失敗した場合は、警告を発行します。このツールは以下にあります。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_watchdog.sh
```

### アラート生成スクリプト

pandora\_watchdog.sh スクリプトは、/usr/bin/pandora\_alert 内の設定ファイルを探し、アラートを生成します。このファイルには、ウォッチドッグが Pandora FMS サーバを起動できないときに実行するコードを定義します。この例ではSMS を介した警告に加えてTentacle サーバを停止します。

```
#!/bin/bash
sendsms +34458474843 "The Pandora FMS has suffered some issue and it cannot be started."
/etc/init.d/tentacle_serverd stop
```

スクリプトに実行パーミッションを与えます。

```
chmod 750 /usr/bin/pandora_alert
```

### ウォッチドッグ起動

ウォッチドッグを起動し、バックグラウンドで動作させるには、次のように実行します。

```
nohup /usr/share/pandora_server/util/pandora_watchdog.sh &
```

ウォッチドッグを実行しているときに、メンテナンス上の理由で Pandora FMS サーバを手動で停止したい場合は、事前にウォッチドッグプロセスを停止して、サービスが自動的に起動されないようにする必要があります。

### ヒストリデータベース



**E** ヒストリデータベースは、メインの Pandora FMS データベースの応答を良くするために、そこから古いモジュールデータを移動させ保存しておくためのものです。データは、レポートやモジュールグラフの参照時に Pandora FMS コンソールでシームレスに利用できます。

## ヒストリデータベースの設定

バージョン NG 754 およびそれ以降 **E**

**E** ヒストリデータベースを設定するには、それをホストする新しいサーバが必要です(メインデータベースのサーバとは異なります) MySQL がインストールされているサーバを用意したら、次の手順に従います。

Pandora FMS コンソールで、**セットアップ(Setup)** → **セットアップ(Setup)** → **ヒストリデータベース(Historical database)** へ行き、**接続設定** (接続先設定(Configure connection target)) にアクセスします。

**Enable historical database**

Configure connection target

Host	<input type="text"/>
Port	<input type="text" value="3306"/>
Database name	<input type="text" value="pandora"/>
Database user	<input type="text" value="pandora"/>
Database password	<input type="password"/>

次のフィールドを入力します。

- ホスト(Host): ヒストリデータベースのホスト名(または IP アドレス)
- ポート(Port): ヒストリデータベースの接続ポート番号。標準は、3306 です。
- データベース名(Database name): ヒストリデータベースの名前。デフォルトは pandora です。
- データベースユーザ(Database user): ヒストリデータベースユーザ。デフォルトは pandora です。
- データベースパスワード(Database password): ヒストリデータベースのパスワード。これにより、ヒストリデータベースに接続できるようになります。次に、カスタムパラメータを入力します(設定のカスタマイズ):

## Customize settings

Active to historical settings

Advanced options 

Data days old to keep in active database ⓘ

15

Transference block size (Step) ⓘ

1500

Delay between transfereces (seconds)

1

Historical data settings

Maximum historical data age (days)

180

Maximum historical string data age (days)

180

Automatic partition of big tables. ⓘ 

Historical events settings



Enable historical events

Events days old to keep in active database ⓘ

6

Maximum historical events age (days) ⓘ

180

Historical trap settings



Enable historical traps

Days old to keep in active database ⓘ

6

Maximum historical traps age (days) ⓘ

180

Update 

このフォームの最後のフィールドアクティブなデータベースに保持するデータ日数、転送ブロックサイズ(ステップ) および 転送の遅延(秒) は、データが履歴データベースへ送信される方法を定義します。つまり、オーバーロードを避けるために  $n$  日(データ日)以上前の古いデータが、 $n$  行(ステップ)単位で、それぞれの送信単位の間  $n$  秒(遅延)待機しながら履歴データベースに移動されます。

同じ画面で、 $n$  日を超えるイベントを履歴データベースに送信するかどうかを決定することもできます(アクティブなデータベースにイベントを保持する日数)。ただし、イベントは履歴データベースを大幅に増大させることと、レポートを生成するときのみ参照されイベント表示では参照されない点を考慮する必要があります。

**E** 履歴データベースは、`/usr/bin/pandora_db` バイナリを使用してデータを転送する Enterprise 版の機能です。加えて、**履歴データベースのメンテナンス**設定を行う必要があります。

## NG 753 およびそれ以前のバージョンにおける履歴データベース

こちらの手順は、バージョン 753 およびそれ以前のバージョンのみを対象としています。バージョン 754 以降、必要なのは前の章で説明した接続値を設定することだけです。Pandora FMS は、インストールプロセス全体と**履歴データベースのメンテナンス**を処理します。

**E** 履歴データベースを設定するには、それを格納する(メインのデータベースとは異なる)新たなサーバが必要です。MySQL をインストールしたサーバを準備したら、以下の手順を実行します。

- 新たな履歴データベースを作成します。

```
[root@pandorafms ~]# mysql -u root -p
mysql> create database pandora_history;
```

- Pandora FMS データベーススキーマを作成します。Pandora FMS コンソールと共に提供されている `/var/www/html/pandora_console/pandoradb.sql` が利用できます。それを履歴データベースサーバへコピーします。

```
cat pandoradb.sql | mysql -u root -p -D pandora_history
```

- 履歴データベースにアクセスできるように Pandora FMS サーバとコンソールで利用するユーザのパーミッション(user と password)を設定します。

MySQL 5.7 向け:

```
GRANT ALL PRIVILEGES ON pandora_history.* TO 'user'@'%' IDENTIFIED BY 'password';
```

MySQL 8 向け:



- \$DBROOTPASS: MySQL 8 root ユーザパスワード。
- \$DBUSER: MySQL 8 ユーザ名。
- \$DBPASS: MySQL 8 ユーザパスワード。
- \$DBPORT: MySQL 8 用接続ポート。
- \$DBHOST: MySQL 8 サーバの IP アドレスまたは FQDN
- \$DBNAME: データベース名。

これらの環境変数を使用するには、`GRANT` を実行する前に次のようにターミナルで設定するだけです。

```
env TZ='Europe/Madrid' \  
DBHOST='127.0.0.1' \  
DBNAME='pandora' \  
DBUSER='pandora' \  
DBPASS='pandora' \  
DBPORT='3306' \  
DBROOTPASS='pandora'
```

ターミナルで以下を実行します:

```
systemctl restart mysql
```

ターミナルで以下を実行します:

```
export MYSQL_PWD=$DBROOTPASS  
echo "CREATE USER \"\$DBUSER\"@%' IDENTIFIED BY \"\$DBPASS\";" | mysql -uroot -  
P$DBPORT -h$DBHOST  
echo "ALTER USER \"\$DBUSER\"@%' IDENTIFIED WITH mysql_native_password BY  
\"\$DBPASS\"" | mysql -uroot -P$DBPORT -h$DBHOST  
echo "GRANT ALL PRIVILEGES ON $DBNAME.* TO \"\$DBUSER\"@%' " | mysql -uroot -  
P$DBPORT -h$DBHOST  
  
export MYSQL_PWD=$DBPASS
```

ヒストリデータベース(DB)にはすべてのシステムデータ(無制限)を含めることができますが、ヒストリデータベースからデータを削除または圧縮する場合は、`pandora_db` スクリプトがノードから実行される際の設定を示すデータベース内の特定のデータを使用する必要があります。

これらの手順はすべて、バージョン 753 以前のバージョンのみを対象としていることに注意してください。

まず、ヒストリデータベースのデータを `tconfig` テーブルに入力します。この SQL クエリを使用して最小限の設定を作成し、`pandora_db` がヒストリデータベースに対して実行される際の設定をします。まず MySQL のコマンドライン(CLI)を使用してデータベースに接続する必要があります。

これは例です。値は好みに応じて置き換えます(ただし、`history_db_enabled` はゼロのままにし

ます)。

```
INSERT INTO `tconfig` VALUES (1,'days_purge','180');
INSERT INTO `tconfig` VALUES (2,'history_db_enabled','0');
INSERT INTO `tconfig` VALUES (3,'days_compact','120');
INSERT INTO `tconfig` VALUES (4,'step_compact','1');
INSERT INTO `tconfig` VALUES (5,'event_purge','180');
INSERT INTO `tconfig` VALUES (6,'string_purge','180');
INSERT INTO `tconfig` VALUES (7,'MR','<actual MR value>');
```

- < actual MR value > を、メインの Pandora FMS サーバの現在の MR 値に置き換える場合は特に注意してください。
- この例は、ヒストリデータベースに過去6ヵ月間(180日)のデータを保存します。(days\_purge)
- 120日より古いデータを圧縮します。(days\_compact)
- メインデータベースに最低1ヵ月分のデータがある場合、前月分がヒストリデータベースになくてもメインデータベースにはデータがあるため、合計6か月のデータを参照できます。(event\_purge および string\_purge)
- 各値は任意に変更してください(MR および history\_db\_enabled は除く)。ヒストリデータベースのストレージの上限は、マシンの空き容量にのみ依存します。ヒストリデータベースは、メインデータベースおよび Pandora FMS から独立した物理サーバにある必要があることに注意してください。

Pandora FMS 753 以前のバージョンでは、通常のデータベースのように、データベースであらかじめ設定したデータを使用してヒストリデータベースサーバ自体でメンテナンススクリプト pandora\_db を実行し、さらに以下で説明するように設定ファイルを作成する必要があります。

Pandora FMS 753 以前のバージョンでは、追加の pandora\_server.conf ファイルを作成します。独自の設定ファイルとして /etc/pandora/pandora\_server\_history\_db.conf という名前を付けます。

```
dbengine mysql
dbname pandora_history
dbuser user
dbpass password
dbhost 192.168.70.140
log_file /var/log/pandora/pandora_db_history.log
```

これらの手順はすべて、バージョン 753 以前のバージョンのみを対象としていることに注意してください。

これで、ヒストリデータベースに対して pandora\_db ツールを実行できるようになり、定期的に行うように設定できます。

```
/usr/share/pandora_server/util/pandora_db.pl
/etc/pandora/pandora_server_history_db.conf
```

この処理は、別のサーバの別のデータベースに対して実行されるため、メインのデータベースには影響を与えません。

[Pandora FMS ドキュメント一覧に戻る](#)